

(公財)川崎市
国際交流協会の

講師 INSTRUCTOR 紹介



2015夏休み
こども語学教室担当
(ポルトガル語)

ハーレー&マホ・
タナカ先生

サッカー(ゲーム)やダンス… 元気にポルトガル語を体験してみよう!

Oii! Tudo bem? (オイトウド ベン?) みなさん、お元気ですか? はじめまして、ハーレーです。

私は18歳の時に、ブラジル共和国の北部・パラ州というところから、仕事のために家族と一緒に来日し、今は日本人の妻と3人の子どもたちと、川崎市内に住んでいます。趣味はサッカーと空手です。サッカーをしていると、自分がブラジル人であることを実感することができ、空手は技術や作法だけでなく、日本の習慣や日本人との付き合い方など、たくさんのことを学ぶことができますので、どちらも大好きです。



10年前に、川崎市を中心に、ブラジル発祥のスポーツ「フットメザ」を広める活動を始めました。「フットメザ」はゲーム台の上で行うサッカーで、年齢・性別などを気にすることなく、誰でも参加することができます。いつでも誰とでもサッカーをしたいブラジル人だからこそ考えついた競技だと思います。母国の大好きな文化を、第2の母国日本に広めることができるのは大きな喜びです。いつかフットメザが日本の文化として根づくといいなと思いながら活動を続けています。

「こどもポルトガル語教室」は、妻のマホと一緒にいきます。教室では、ゲームやダンス、歌などで「楽しく学ぶ」と、学んだ言葉を使って「相手に伝える」ことを大切にしています。慣れない言葉で自分の思いが伝わった時、また相手の思いが理解できた時は本当にうれしいですね。その喜びを子どもたちに体験してもらえるように、こどもたちのポルトガル語との「はじめまして」が素敵な思い出となるような3日間をしたいです。みんなに会えるのを楽しみにしています! Tchaul! (チャオ!)

(文: ハーレー&マホ・タナカ)

災

害時に外国人市民を支援する

「災害多言語支援センター」設置に向けて

多文化
交差点

[たぶんかこうさてん]

21

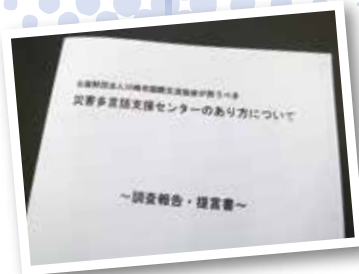
平成24年度から、公益財団法人川崎市国際交流協会は、「外国人市民のための災害時支援」をテーマに調査・研究事業を行ってきました。

昨年度は、一般財団法人ダイバーシティ研究所に調査を依頼し、今年2月、「外国人市民のための災害時支援のあり方」に対する意見交換会を開催しました。

同研究所・田村太郎代表理事より、20年前に起きた阪神・淡路大震災から新潟中越地震、新潟中越沖地震、東日本大震災における外国人支援活動の話を伺ったあと、外国人市民、NPO代表者、協会登録ボランティア、協会職員がそれぞれの体験、思いを話し合いました。

参加者からは、以下のようなことが必要だという意見が出て、地域とのつながりの重要性を再確認し、できることを今すぐ実行していく必要性を感じる2時間でした。

- 地域(図書館・市役所など行き慣れた場所)への分かりやすい掲示板(多言語)の設置
- 避難所での食糧、物資等必要な情報の翻訳
- 「災害ボランティア」とともに
行う訓練の積み重ね
- 体育館で1泊するなどの避難生活体験
- 訓練を通してつくる地域コミュニティ



この意見交換会などをもとに同研究所から提言を受け、「いつ起きるかわからない大災害」に備えて、(公財)川崎市国際交流協会が川崎市の「災害多言語支援センター」設置・運営を担うため、今後川崎市や市民ボランティア、外国人市民・コミュニティとともに具体的に検討していくことになります。

(取材・文: 編集ボランティア 相沢 明子)